

第2回中野区歌に関する審議会 議事録

1 日時

平成26年1月31日（金） 午後6時半～8時

2 場所

区役所4階 庁議室

3 次第

- (1) 第1回中野区歌に関する審議会議事録(案)の承認について
- (2) 詞や曲のイメージ及び詞に取り入れたいフレーズについて
- (3) 区歌の作成を依頼するに相応しい人物像について
- (4) ワールドカフェの開催について

4 出席者

(1) 出席委員（12名）

青山委員、三好委員、山口委員、鈴木委員、片寄委員、榎本委員、谷津委員、佐藤委員、小野（未央）委員、関谷委員、橋本委員、米川委員

(2) 欠席委員（2名）

小野（光）委員、濱本委員

(3) 事務局等（6名）

竹内政策室長、酒井政策室副参事（広報担当）、政策室広報担当職員3名

5 配布資料

《資料》

※ 第2回中野区歌に関する審議会 次第

※ 委員座席表

- (1) 第1回中野区歌に関する審議会議事録(案)
- (2) 区歌にふさわしいイメージなどの募集結果
- (3) 「区歌の作成を依頼するに相応しい人物像」の議論の視点について
- (4) ワールドカフェの開催について

6 議事録

○青山会長

会議を始める前に、本日JCN中野から取材の申し込みがあり、カメラによる撮影を許可していますのでご了承ください。

では審議会を始めます。終了の目途は8時半としたいと思いますのでよろしくお願いしま

す。本日出席されている委員の人数は12人。委員総数14人の半数を超えており、条例の規定を満たしており有効に審議会が成立していることをご確認ください。まず、資料の確認を事務局からお願いします。

○酒井副参事

〈配布資料を確認〉

○青山会長

それでは、まず始めに、前回の審議会の議事録の確認を行いたいと思います。事務局から事前に各委員に議事録案が送付され、訂正の必要な箇所は事務局に申し出ていると思いますが、お手元の資料はその修正が反映されているものだと思います。下線の引かれているところが訂正箇所だそうです。この議事録案でご確認いただくということよろしいでしょうか。

〈委員了承〉

○青山会長

それではこの議事録案で確定させていただきます。この議事録は近々区のホームページで公開されるということなのでご承知おきください。

それでは2番目の議題である「詞や曲のイメージ及び詞に取り入れたいフレーズについてに入りたいと思います。

皆さんと意見交換する前に、第1回の審議会で活発な意見を出していただいたイメージなどの募集について結果をまとめた資料があるそうですので、その説明を事務局にお願いしたいと思います。

○酒井副参事

それでは資料の2をご覧ください。今回の応募者は170人。言葉が200以上。最後に折り込んでありますがイラストも何点か応募がありました。

イメージと言葉については、こちらの方でいくつかに分類して掲載しています。最初に地名・名所、次に自然、感情・気持ち、そして人。一番多かったのが中野のまちのイメージでした。それから中野という言葉をかけたもの、中野の花や木、最後にその他となっています。いくつかの学校でまとめて出しているということで、主な学校を紹介しますと、都立富士高校の附属中学校3年生が46件、啓明小5年生が16件、堀越高校の吹奏楽部の生徒さんから43件ありました。そして最後がイラストになります。

○青山会長

短期間ですけれども、当初事務局が考えていた日程を変えてある程度期間を延長し、区報だけでなく、声をかけられるところには声をかけていただいた結果、応募のあったものです。この結果は参考にしますが、とは言え私たちの会議は、この中からどれかを選ぶということではなく、この会議としてどのような言葉、イメージがいいのかということに答申する立場であると思います。この結果は結果として十分に参考にさせていただきながら、委員の皆さんには忌憚のないご意見を出していただければと思います。今日出された意見を事務局と私で相談してまとめさせていただき、次回の審議会でも再度ご議論いただきたいと思いますので、どうぞ自由にご発言ください。よろしくお願いいたします。

○榎本委員

重複したフレーズはまとめていると思うのですが、応募された中で一番多かったフレーズはどのようなフレーズだったでしょう。

○事務局

たまたまでしょうが、つつじ、しいの木という言葉が何人かからまとまって出されてきました。区の木、花だからでしょうか。その他ではサンプラザやブロードウェイです。応募の中心が中高生であったということもあると思います。

○青山会長

傾向としては、明るい、楽しい、笑顔といったその種の言葉が多いように思います。資料は参考にさせていただき、皆さんの意見をどんどん出していただきたいと思います。

○榎本委員

最近の歌には英語のフレーズが多いと思います。区歌ではないですが、昨年夏の甲子園で東北勢が活躍して日大山形も上位に行きましたが、その校歌が耳に残りました。最初に「ボーイズビー アンビシャス」というフレーズが出てくるのです。学校の名前がわからなくても、そのフレーズが出てくるとまた歌おうと思えてくる。最初のフレーズにインパクトがありました。英語のフレーズというのは耳に入って来ますね。流行歌にも出だしに英語のフレーズが出てくることが多いですね。

○青山会長

例えば、今のような意見を報告書に書いてもいいと思います。誰にでもわかり易く、英語

のようにインパクトのあるフレーズが欲しいといったようなことを。そのようないろいろな注文を報告書に出していけばいいのではないのでしょうか。今のご意見は特に反対する人がいなければ報告書に書いてもいいのではないのでしょうか。

○榎本委員

中野区にはこれから国際関係の学部が進出して来て、外国人の比率が高くなって来ると思っていますので、国際感覚に富んだ歌詞などがいいと思います。

○青山会長

今のような意見をどんどんお願いします。

○橋本委員

姉妹都市が中国にあるということを聞いたのですが、今のご意見はいいと思います。

○榎本委員

区内で一番多い外国人は中国で、次が韓国ですね。

○酒井副参事

韓国のソウルのヤンチョン区というところと姉妹都市です。中国は北京の西城区と友好都市です。

○小野（未）委員

子どもたちがたくさん応募してくれたことや、これから子どもたちが歌う機会が多いであろうこと、今話に出た国際感覚を取り入れてということで、これから小中学校で英語教育が盛んになって来ると思うので、フレーズとしサンモールですとかブロードウェイといった言葉が出されていますが、横文字を入れるのもいいのではないかと思いました。子どもたちが歌いやすい平易な言葉だけれども、深みのある言葉が入っていて、いろいろな広がりを感じられる区歌がいいのではないかとも思います。

難しい言葉を使わずに易しい言葉でイメージの広がるいい歌を作るシンガーソングライターで榎原敬之さんという人がいらっしゃいますけれど、その方は歌詞がほとんど日本語ですが、非常に心に訴えて来ます。例えば「世界に一つだけの花」という歌を作った方ですが、そのような感じの区歌がいいのではないかとこの資料を見て思いました。

○佐藤委員

歌は歌詞をすべて覚えているというよりも、一部を口ずさんでいることが多いと思います。先ほど話に出ていた日大山形高校の校歌の最後のサビの部分のように、中野区歌イコールこの歌詞といったような、心に残るフレーズがあればいいと思います。お風呂などでも鼻歌で歌われるような区歌がいいのではないかと思います。

○青山会長

昔歌った歌も一つのフレーズだけ覚えていて、それが出てくると次々に歌が出てくるということもありますからね。

○鈴木委員

時々、一番の歌詞だったか二番の歌詞だかわからなくなることがあると思いますが、できるだけそのようなことがないといいと思います。難しいかもしれませんが、スラスラっと流れていくような歌がいい。一生懸命覚えなくては歌詞の順番がわからなくなるような歌では、徐々に歌われなくなると思います。

○片寄委員

今の鈴木委員の意見と同じようなことを考えていましたが、皆さんから出て来たイメージや言葉がこんなにあるのだなと感心しました。例えば一番は土地や地域のこと、2番は生き物や花や自然、3番は人で締めてもらいたい。個人的には3ページ目の人のところにたくさんフレーズがありますが、「古いも若きも手を取りあって」や「人情熱い人いっぱい」、まちのイメージのところの「新しい風吹きこんでますます栄える中野」といったような言葉で最後を締めてもらい、1番、2番、3番の最後の2行ぐらいは同じ言葉が並ぶとまとまりがいいと思いました。

○青山会長

だいたい区歌ができてしまいましたね。

○榎本委員

替え歌ができるような歌は名曲が多いですね。日大山形の校歌も替え歌が多いそうです。

○青山会長

それだけメロディーもいいのでしょうかね。

○鈴木委員

地名が入るのもいいですが、ごく一部の地域の地名が入るだけだと、区全体で考えると自分の身近な地名ならいいでしょうけれど、そうでないと難しいのかなと思います。いろいろな地名が出ていますが、例えば、哲学堂を入れるとすると近くに住んで毎日散歩しているような人はいいでしょうが、遠くの方はぴんと来ないのではないのでしょうか。地名も入れたいと思いますが難しいですね。

○青山会長

中野には中野を代表するような地名でこれといったものがないですね。高尾山というと八王子をイメージしますが、そのようなものがないですね。何かあるでしょうか。

○鈴木委員

ブロードウェイやサンプラザでしょうかね。

○小野（未）委員

今回の募集結果を見てもないなと感じました。例えば四季の森といったようなこれからのランドマークになるような地名がない。学校も再編されて新しい近代的な校舎も建ち、中野が変わっていくと思うのですが、ちょっと前のイメージが多いなというのが感想です。歌詞を作るときは新しい中野のイメージを取り入れるようにした方が、先々のためにもいいのではないかと思いました。

○三好委員

今までのお話を聞いていてインスパイヤされたのですが、今までの歌の概念を取り払い、1番、2番、3番を過去、現在、未来といったように作ってもいいし、例えば1番は子どもたちが歌える、2番は大人が口ずさめるといったようなカテゴリーに分けても、オリジナリティーがあって、中野区の区歌は他と違うなといった感じでいいのではないかと思いました。

○佐藤委員

地名はそれぞれの方が住んでいる場所に思いがあると思いますが、もし地名を入れるのなら区内の地名はすべて入れた方がいいのではないのでしょうか。そうすると1番から10番ぐらいになってしまうかもしれませんが、子どもたちが歌っている「ポケモン言えるかな」という歌をご存知でしょうか。ポケモンに出てくるキャラクターが全部入っているのですが、いろいろな地名が入っていると、自分の町の地名が入っている部分を各町会がおらが町の歌はこれだといったようになり、ずっと歌い継がれるのではないかと思いました。替え歌バージョンでもいいのかなとも思います。

○谷津委員

今の佐藤委員のご意見にインスパイヤされたのですが、全部地名が入っていたならば素敵だと思いますが、地名の部分だけ自分の町に変えられるようにすればいいのではないのでしょうか。その地名の歌詞の部分に新井の人は新井を入れ、沼袋の人は沼袋を入れる。歌詞の場所を指定しなくてはならないので難しいとは思いますが。日大節という歌があるのですが、この歌は東洋大の人も歌っている。お茶の水に大学のあった人が皆同じフレーズで歌っています。大学名のところやクラブの名前を入れ替えて歌っているのです。ふと思いついたのですが、オリジナリティーが必要だと思うので、地名に限らず学校の名前などいろいろ入れ替えて歌えるような歌にしてはどうかと思いました。

○鈴木委員

私は、今のご意見の逆で、もっとシンプルでオリジナリティーのあるものの方がいいのではないかと思います。あまり歌詞が変わってしまうと、結局どのような歌であるかが分からなくなってしまいます。プロモーションビデオのようなものを制作して、区歌が流れる中でいろいろな中野の風景の映像が映し出されるといいのではないのでしょうか。区歌そのものはシンプルなものの方がいいと思います。一生懸命覚えなくても覚えられるような歌がいいと思います。谷津委員のご意見とは逆ですけど。

○谷津委員

いいえ、鈴木委員のご意見と同じだと思います。シンプルな歌にすることによって誰かが変えていくのだと思います。複雑な歌ではだれも変えることができなくなってしまいます。とっってもシンプルにすれば、勝手に誰かが変えていくのだと思います。日大節もシンプルな歌です。

○榎本委員

覚えやすい歌ですね。

○山口委員

いろいろご意見が出ていますが、区歌を作るのはどなたかにお願いするのでしょうか、依頼される立場に立って考えると、どうやって作るのかなと心配になります。中野区の区歌なので全体で歌える歌を推薦すべきではないかと思います。あちらこちらの地域性を込めようとすると作る人は大変なのではないのでしょうか。できるだけシンプルな24小節ぐらいの長さで比較的短めなフレーズ、地域ではなくて花とか木のようなフレーズを入れたものもいい

のではないのでしょうか。どこの地域でも歌えるものをお願いするのがいいのではないかと思います。作る人は、あれもこれもと言われると難しいと思います。入れるとしたら区のランドマークになるものにとどめて、区全体で歌える歌にすべきではないのでしょうか。

○青山会長

前回は話に出たかもしれませんが、中野区の花・木はなんですか。

○事務局

花はつつじ、木はしいです。

○青山会長

それらを入れた方がいいのかどうかということは、報告書には書いてあった方がいいのでしょうか。今日決めなくてもいいですが、一つの論点でしょうね。その他に中野区の鳥といったような、そういったものはあるのですか。

○事務局

鳥もありませんし、そのほかに「中野区の」というものはありません。

○青山会長

基本構想のキャッチフレーズはありますか。

○事務局

特にキャッチフレーズはありません。

○青山会長

そうすると木と花だけですね。

○榎本委員

中野区の色はないのですか。

○酒井副参事

特別に決まった色はありませんが、区の紋章には紺や青を使うことが多いですね。

○青山会長

中野のイメージを一言でいうと何なのでしょう。歌の中で「中野」「中野」と繰り返せば中野の歌だとわかるでしょうが、イメージで中野とわかるようなイメージはないのでしょうか。

○鈴木委員

イメージではないのですが、こんな素敵な歌なら中野に住んでみたいと思えるようなお洒落な区歌がいいですね。

○青山会長

要するに素晴らしいお洒落な歌がいいということですね。住んでみたくなるような歌ですね。

○鈴木委員

例えば、いい曲であればホルストの「木星」のように、オーケストラや吹奏楽で演奏してみたいくなります。ホルストは編曲まかりならぬと遺言していたのですが、著作権の期間が過ぎたならば、大勢の人が編曲して演奏しています。そこまですごくなくても、中野区歌を皆で一緒に演奏してみようよと言われるような音楽がいいと思います。あまりいろいろなことに拘らないで、フレーズのきれいな、つつじやしいの木が入ってなくてもいいので、きれいな歌がいいですね。

○山口委員

アレンジはいろいろできるでしょう。

○青山会長

フレーズも大切ですが、メロディー自体が美しければいいわけですよ。それも重要な要素ですね。名曲であるということが大切です。

○鈴木委員

曲とともに言葉も大切ですね。「世界で一つだけの花」などは、あっという間に皆が歌うようになったと思います。

○青山委員

歌詞がよかったのですね。

○鈴木委員

メロディーもよかったですね。意外と聞いてみると単純ですけども。

○片寄委員

あまり学校に特化した意見ではだめなのかなと思いますが、学校のいろいろな行事で歌うことを考えると、例えば、入学式や卒業式では国歌や校歌とともに重要な場面で歌うことになると思います。ちょっとしたイベントで歌うのならばどんな曲でも合うのだと思いますが、そのような式や周年行事で歌う時に、あまり砕けた歌詞ではどうなのかなと思います。いろいろなバージョンがあるならばいいのですが、言葉は美しく子どもたちも来賓の方もどの世代でもいいと思える歌というのは難しいと思いました。儀式でも歌えるし、老人会でも婦人会でもどこでも歌える歌というのはどのようなものかと思いながらお話を聞いていました。学校の立場からすると式で歌うイメージがあります。最初区歌はポピュラーなイメージでいたのですが、鈴木委員のお話を聞いていると、美しい歌ならば式でも歌えるのかなと思えてきました。万能ということだと作る人は難しいだろうなと改めて思いました。

○谷津委員

作る人はプロなのでそのようことは全く気にしなくてもいいと思います。作詞・作曲家のことを気遣う必要ないと思います。どんなオーダーが来ても作ることができるのがプロフェッショナルだと思います。気にしないで、私たちは言いたいことを言えばいいのだと思います。今お話にあった学校で歌うことのできる歌というのは、みんなに歌われる歌なのだと思います。

○片寄委員

「ポケモン言えるかな」のような歌だと式では歌えないと思います。

○谷津委員

ポップスぐらいの感じならば学校でも歌えるのではないのでしょうか。ハードロックは難しいでしょうけれど。

○米川委員

アレンジで曲は変わります。前回聞いた今の中野区歌は全く詞も曲も悪くないと思います。しかし、なんか古めかしく感じる。みんな知らない、関心がないということでどうしようかなということだと思のですが、あまり時代に拘らず普遍的でシンプルなきれいな曲がいいと思います。

○青山会長

要はいい歌ならいいということですね。

○鈴木委員

本当にそう思います。これを歌いなさいといったように押し付けなくては歌われないような歌ではいけないと思います。そのような歌ならば作り変える意味がないと思います。あの歌ならば歌ってみようかと思ってもらえるものでなくてはならないと思います。

○青山会長

区が作詞・作曲をお願いする人の持っている中野区に対するイメージもあるでしょうね。こちらでこのようなイメージというものを無理に作らなくてもいいのかもしれませんが。

余談ですが、東京都に62市区町村あるのですが、まちづくりビジョンを作るときにそれぞれのまちのイメージをどのように表すか議論するのですが、中野区のイメージは「住みやすく商店街が栄えている」というイメージになります。違っていますか。

○榎本委員

住みやすいというのはその通りですね。最近では住みたいまちのランクで上位に入りますから。そのフレーズを入れてもいいのではないですか。商店街までは入れなくていいですけど。

○青山会長

他の地域から見るとそのようなイメージなんですね。中野の商店街は他と比べたら大変栄えていると思いますよ。少なくとも杉並や練馬区から買い物に来る人が多いですから。

○榎本委員

商店街の立場からすると、買い物するだけでなく行きたくなるまちのイメージがあるのだと思います。フレーズに入れなくてもいいですが、そのようなイメージは伝えたいですね。

○青山会長

作詞・作曲はそれなりの人に依頼するのでしょうかから、依頼する人が中野区にどのようなイメージを持っているかも大事でしょうね。

資料にある言葉やイラストのイメージで、是非この言葉は入れた方がいいというものがありますか。それらは答申に入れてもいいと思います。

○関谷委員

このアンケートの結果で20、30代が少ないことに驚いていますが、出てきた言葉にはそんなに違和感を感じません。ブロードウェイ、サブカルチャーというところで見裏のイメージがあるのですが、中野のイメージは昔から、総合するとカルチャーというイメージがあります。具体的にブロードウェイという建物名を入れるかということは別問題ですが、これだけ共通項で出ているということは、アニメなどに限定する必要はありませんが、カルチャー感が感じられるようなイメージは外せないのではないかと思います。

○青山会長

商店街という歌詞にはならないかもしれないですけども、ショッピングですとかカルチャーといったイメージが入っているといいですね。

○橋本委員

少し話が外れますが、私は長野出身で、小学生の時に担任の先生から東京の中野区役所の脇に銅像があると聞いたのですが、そのことがずっと忘れられなくて、東京に出てきて区役所でバスを降りてみると、ちょうど区役所のところに犬の銅像がありました。そのいわれがわからなくて事務局の方に質問したところ、資料を送っていただいたのですが、徳川綱吉の関係で犬をたくさん集めた場所だったということがわかりました。そのような歴史感も入れたらいいのではないかと思います。

○青山会長

そのことは中野にとって重要な歴史ですね。今でも囲町という名前が町会に残っています。その場所にその後、陸軍中野学校ができ、戦後は警察学校・大学校ができたのですが、中野にとっては歴史的なポイントですね。

○関谷委員

そのような歴史的なエピソードも歌詞に入れた方が、歴史の流れが頭に入って記憶に残るのでいいと思います。

○青山会長

カルチャーやショッピングといったイメージと同じように、江戸時代からの歴史が残っているまちだということもわかるようなフレーズも必要だという注文をつけてもいいと思います。

今日出していただいたご意見を事務局に答申のたたき台のような形でまとめてもらうと、次回の私たちの議論も進むと思いますので、さらにご意見を出していただきたいと思います。

○鈴木委員

先ほど三好委員がおっしゃったように、過去・現在・未来といったようなイメージもいいと思うのですが、現在について、今は現在かもしれないですけども、10年たてば過去になってしまいます。もしかしたら10年後にはサンプラザはないかもしれない。今、中野の駅前に大学ができて学園都市になって来ていて、大学は文化の中心だと思います。大変なことだと思います。新しくできて区民に定着していない名前が、はたして未来にも定着しているかどうか。例えば国鉄が民営化されたときに「国電」を「E電」と呼ぶことにしたのですが、すぐに死語になって今は「JR」と呼んでいます。何が生活する人間に定着していくかわからないですが、歴史は動かない。過去に囲町があり、そこが今学園都市になっています。歴史を入れると長くなりそうなので、過去と未来に絞る。現在が一番難しいと思います。1番から2番、3番と流れていく歌もあるし、曲の中には1番と2番は同じメロディーで3番だけ違うメロディーという歌もあります。作曲家によるとと思いますが、あまり歴史に拘ると古くなる恐れもあるのではないのでしょうか。歴史も大事ですけど。

○谷津委員

私も同じことを感じました。歴史は大切ですが、中野坂上の成願寺の長者伝説など歴史はたくさんあって、すべて入れると確かに古臭くなってしまう懸念があります。同じように、三好委員がおっしゃったような、過去・現在・未来という方法が使えるのではないかと思います。過去は過去としてまとめた方が全体にちりばめるよりいいのではないかなと思います。四季の森公園も私たちはいろいろなイベントをそこで開催して、名前を広めようとしていますが、区民に浸透するのか心配しています。四季の森公園の名前を歌詞に入れても将来大丈夫なのか。こんなメインな場所にある四季の森公園に行ったことのない区民がたくさんいます。四季の森公園はどんなところなのとおっしゃる方が多いです。歌詞に入れても「E電」と同じように、「その公園どこにあるの」といわれるのではないかと不安になります。

○鈴木委員

公園は使われないと忘れられていきます。青空ライブなどをどんどんやれば人が集まって来るのでしょうか。安全できれいでみんなが楽しめるスペースにしたいです。行くと怖い場所になっては困ります。中野の中央にある公園なので大事にしたいですね。

○谷津委員

大学と公園がセットになっているので、大学はなくならないでしょう。学園都市のイメージは残るのではないのでしょうか。

○佐藤委員

違う話になりますが、四季の森公園は中野区がその名前を広めていこうと思っているのだと思いますが、2月2日にランニングフェスタが四季の森公園の周りで開催されます。そのように、区はいろいろなイベントを四季の森公園で開催していくつもりなのではないのでしょうか。

○酒井副参事

ねぶたを昨年巡航させましたが、四季の森公園でいろいろなイベントを開催して、知名度を上げていこうと考えています。しかし、いまだに知らない人が多いですね。

○青山会長

紅葉山も昔からありますが、あまり知られていませんね。

それでは、議題2の意見交換はこの辺にして、今日出していただいた意見を事務局に答申のたたき台のような資料にまとめてもらって次回出してもらいたいと思います。

次の議題に移りたいと思います。次は作成を依頼するのにふさわしい人物像ですが、これについて事務局から何か説明がありますか。

○酒井副参事

資料3をご覧ください。前回、小野副会長や他の委員からもご意見が出されたのですが、区歌にどのような役割を期待するのか。例えば区民の一体感を醸成することですとか、対外的に中野区をPRすることですとか、いろいろあると思うのですが、どのような区歌にしたいのかというイメージがあって、そのようなイメージを実現するために、このような人に作成を依頼したいという視点があるのではないかということで、資料3を出させていただきました。議論の視点は事務局が例示として挙げたものなので、自由にご議論いただければと思います。

○青山会長

どのような区歌を期待するのか。区民の一体感や区への愛着を醸成するのか、区の対外的なPRやイメージアップを求めるのか。そういった区歌を作る目的によっても作成を依頼する人物像が違ってくるのではないのでしょうかということですね。そして、中野区に縁のある人がいいのか、どのようなジャンルの人がいいのか。作詞と作曲は別の人なのか。先ほど出ていた榎原敬之さんのように、作詞・作曲を一緒にしてしまう人もいます。歌まで一緒に歌

う人もいます。そのような人も議論の対象になるのでしょうか。この資料にあるような視点も踏まえてご意見を出していただきたいと思います。たぶん、答申には具体的な人名までは記載しないと思います。むしろ記載するのは適当ではないでしょう。しかし、この場では具体的な名前を挙げてもらっていいと思います。出してもらった方が議論が進みやすいと思います。議事録に記録は残りますので。

○小野（未）

作詞・作曲家とあるのですが、今の音楽の世界にはプロデュースという形もあると思います。もちろんプロデューサーが作詞・作曲する場合もありますが、プロデュース能力のある人にすべてお任せする方法もあるのではないのでしょうか。

区に縁のある人物ということだと、人選が限られてしまう恐れがあると思います。あまり中野区に縁があるということに拘らなくていいのではないのでしょうか。ジャンルについても、プロデューサーならばどのようなジャンルにも対応できると思うので、拘らなくていいと思います。

○榎本委員

中野にはサンプラザやZEROホールのようなコンサートのできるホールがありますが、中野に足を運んだことのある、中野を知っている音楽家がいいですね。

具体的な名前を挙げると、昨年、明治大学中野キャンパスで開かれた、オープンカレッジを明大OBの宇崎竜童さんと阿木曜子さん夫妻がプロデュースしていましたが、宇崎さんは明大中野高校の卒業生でもあるということですし、最初にギターを買った場所が中野の丸井ということで、良く中野に来られたそうです。最初に区歌の話聞いたときに、この夫婦に頼むといい曲ができるのではないかと思いました。

○青山会長

庶民的な人がいいですね。阿木曜子さんとはある選考委員会で一緒したことがあります。庶民的な感覚の方でしたね。

○谷津委員

最近の音楽業界ではプロデューサーが活躍していますが、それもいいとは思いますが、例えば、作詞、作曲、歌手を別々にすることで、より広い世代をターゲットにできるのではないかと思います。優秀なプロデューサーはそのようなことを考えて作詞家、作曲家、歌手を充てるのですが、一人に絞るとその人を支持する世代にターゲットが絞られてしましますが、三人別々にお願いすれば、各々がいずれかの世代に適合できるということで、より

範囲が広まり、聞く人の興味を引くのではないでしょうか。

縁がある方がいいかということですが、先ほど歌を作る人が中野に対してどのようなイメージを持っているかが歌に反映されるというお話がありましたが、確かに中野に来たことがある方がいいと思います。にぎわいフェスタの関係でそのような人がいないかなと調べてみたのですが、イルカさんいらっしゃいました。

○鈴木委員

谷戸小学校の卒業生ですね。

○谷津委員

中村あゆみさんかその娘さんが七中だったのではないかとこの噂があったので、事務所に問い合わせたところ、関係ないといわれてしまいました。どうなのか。お笑いの人は多いかもしれませんが音楽関係の人は少ないですね。

○鈴木委員

合唱曲を作っている若松歓さん。お父さんの正司さんも作曲家ですが、中学校の合唱コンクールでよく若松さんの合唱曲が歌われています。奥さまは鷺宮小学校の卒業生で、NHKの歌のお姉さんをしていらした歌手です。偶然そのことがわかって、創立130周年の時に歌いに来ていただきました。この若松さんが中野に住んでいらっしゃいます。

世界的なピアニストで四中の卒業生である安田正昭さんも中野に住んでおられる。ソプラノ歌手の新居佐和子さん。この方は鷺宮小学校の保護者でいらっしゃった。結構いろいろな文化人の方が、他校にもいらっしゃると思います。やはり中野に縁のある人の方が温かい作品を作ってくださるのではないかと思います。そのほうが思い入れが出るのではないのでしょうか。

「幅広く区民に親しまれ末長く歌い継がれる区歌を制定するに当たり」ということで、私たちは呼ばれています。私は区歌の役割はこれだと思って、今まで話をして来ましたので、区民に親しまれ愛されるような歌であれば、結果的に中野区を対外的にPRしアピールできると思いますし、区民に愛されない歌ではそれはできないと思います。できれば中野区に縁のあるアーティストに依頼する方がいいと思います。

○青山会長

名前を答申に入れることはできないと思いますが、いろいろ出していただき大変参考になると思います。

○片寄委員

野村義男さんもいらっしゃいますね。

○小野（未）

住んでいないですけど、そのまま名前にしてくださっているサンプラザ中野くんもいらっしゃいます。

○三好委員

区歌や校歌を作って評判がいい谷川俊太郎さんと賢作さん親子がいらっしゃいます。俊太郎さんは、言霊と言われるような大変美しい詞を作られ、作曲家でピアニストの賢作さんとのコラボレーションで、例えばNHKの「歴史は動いた」のテーマソングや映画音楽などを作っていらっしゃいます。このお二人のような人に作詞、作曲をお願いすれば、別々の人をお願いするよりもリンクしていいのではないかと思います。今まで作詞・作曲された校歌や市歌は、今まで出されていたご意見の大変美しく、歌いたくなるような歌というところに繋がって来ると思います。賢作さんは、なかのZEROホールのこけら落しの時から続けている、NPOのZEROキッズにずっと関わってくださっていて、素人とプロとの関わり方が大変上手な方だと思います。

○青山会長

五輪真弓さんは二中出身ですね。

いろいろご意見を出していただきましたが、中野区に縁があるかどうかは拘らないというご意見もありましたが、少なくとも中野に来たことがあって中野のことを知っている人がいいのではないかと。また、中野に縁のある人も多いのではないかと。作詞、作曲、歌手を別々にして、いろいろな世代の人をお願いするというのもあるし、一括してプロデューサーをお願いするという手もある。それぞれ、どちらに重点を置くべきか、次回また議論すればいいと思います。とりあえずは両論併記で事務局に整理してもらい、次回また議論したいと思います。他にもこんな人がいるということを思いついたら、答申には書きませんが次回出してください。

今まで議論してきたことで、その他にご意見はありませんか。

音楽の世界は難しいですね。建築ならば必ずコンペをやります。音楽の世界は誰かに決めて依頼しないとイケないのですね。建築ですと条件だけ付けて一定の金額は払いますが、自由に応募してもらって、その中から選ぶことができ、具体的なイメージをつかむことができるのですが。音楽は誰かに決めてお願いするのですね。お互いのイメージが合わないと困りますね。他にご意見がなければ最後の議題「ワールドカフェの開催について」に移ります。

事務局から説明をお願いします。

○酒井副参事

それでは資料4をご覧ください。前回の審議会では三好委員からご提案のあったワールドカフェについて、開催することとして場所と日時などを決めさせていただきました。3月1日の土曜日、午後1時半から4時まで商工会館で開催します。定員72人の会議室がありますのでその会場で行います。ワールドカフェがどのようなものであるかは、三好委員に説明していただきたいと思います。

○三好委員

委員の皆さんの中に今までワールドカフェに参加したことがあるという方はどれだけいらっしゃるのでしょうか。あまりいらっしゃらないようですね。ワールドカフェというのは、会議の方法の一つで、堅苦しい雰囲気、挙手をしないと発言ができなといったような会議では、消極的な方は言いたいことが言えないまま会議が終わってしまうことがよくあると思います。何も言えないまま会議が終わって、帰り道に喫茶店や居酒屋に入ると、そこで活発な議論が行われるといったことがよくあると思います。そのような席でいいアイデアが出てくることが多いと思います。

そこでワールドカフェは、まるで喫茶店のような雰囲気の中で、屈託のない自由な意見交換をして、アイデアを出し合おうという話し合いの手法です。千人規模から20人ぐらいの人数でもできて人数に限定がありません。方法は、今日のような大きなテーブルを皆で囲んで話をするのではなく、1グループ5、6人ぐらいのグループに分かれます。テーブルの配置も整然と並べるのではなく、ばらばらに並べてざっくばらんなムード作りをします。テーブルにテーブルクロスをかけたり、一輪挿しや飴やお茶を置くなどして、喫茶店のような雰囲気を作り、参加者が会場に入ってきたときに楽しい気分になるような演出をして、始まる前からアイスブレイクができるようにします。そして、テーブルには模造紙が置いてあって、一人ひとりがマジックを持って、皆でわいわい中野区の区歌はどんなものかいいかなどと言いながら、自分の言ったことをいたずら書きのように模造紙に書いていきます。よく研修であるように、天と地を決めて下書きしてから清書するといったようにきちんとしたことでなく、自分の言ったことを自由に、漫画やイラストを描いても良く、発言したことを皆でいたずら書きのように書いていきます。グループで話し合うのは10分から15分、最大で20分ぐらいです。ここも特徴的なのですが、グループに一人ホストという役割の人がいて、その人を残してあとのメンバーが他のグループに移っていきます。このようにすることを「他花受粉」と言っています。蝶のように自分に花粉を付けて他の花を受粉させるようにグループを移っていきます。さっきはこちらのグループでこんな話題が出ていたけれど、このグルー

プではこんな話題が出ていたんだといったように、新しいテーブルでもまたいたずら書きをしていくことになります。他のグループに移って行く人をゲストと言いますが、2、3回グループを変え、最後に最初にいたグループに戻ってくるイメージになります。最初に書いた模造紙にいろいろ加筆され、全く違ったものになっていると思います。このようにワールドカフェは、すべての人と話をしたという形になるのです。さらに小学生からシルバーまで同じテーブルを囲んで話し合いができるのです。今回募集した言葉やイメージは、顔の見えない人から集まったものですが、ワールドカフェはフェイス・トゥー・フェイスで皆の顔を見ながら、おしゃべりをしてアイデアを出し合うのです。今の時代の会議法として世界的に普及しています。私たち委員だけで区歌について考えたということではなく、区民の老若男女が同じ話題で話し合いを行ったということに意義があるのだと思います。

○青山会長

ありがとうございました。3月1日に中野区歌をテーマにワールドカフェを開催するという事です。これについてご質問がありましたらどうぞ。

○小野（未）

ワールドカフェの最終的な目的は、結論を何か出すということではなく、皆で出した意見が各テーブルごとに、ここではこんな意見が出ていた、あちらではあんな意見が出ていたといったような形で終わるものなのですか。それとも、会場の意見を一つにまとめなくてはいけないのですか。私は、一つにまとめるものではないと感じたのですが。

○三好委員

ワールドカフェは、一つの結論を出すための手法ではありません。多様な意見が出ましたねということを確認する場で、一つの意見にまとめる場ではありません。ですから、今日の審議会のように、様々な意見が出ている今の段階がワールドカフェを開催するにはいい時だと思います。

○谷津委員

資料の8番に「その後、全体で発見や洞察を共有する」とありますが、具体的にどのようにするのでしょうか。

○三好委員

例えば、どうしても何か結論を得たいといったテーマの場合は、何か一つの結論を出せばいいのですが、この審議会で審議している区歌の場合は、私たちがもっといろいろな考えを

参考にしたいという段階ですので、結論を出す必要はないと思います。今回のワールドカフェでは、区歌に関するイメージについて今日の資料のような意見が出されるのではないかと思います。フェイス・トゥー・フェイスで出されるというところが、資料とは違うと思います。

○谷津委員

ホストの人に各テーブルでどのような意見が出されたか発表してもらおうというようなことはあるのですか。

○三好委員

もちろん、そのようにしてもいいです。

○谷津委員

いろいろ書かれた模造紙を事務局が持ち帰るだけでもいいのですか。

○三好委員

どちらでも構いません。その日のワールドカフェで、このアイデアはどうしても生かしたいといったようなことがあれば、付箋などにメモして事務局に提出するといったやり方でもいいと思います。やり方はいかようにもできると思います。

○佐藤委員

このワールドカフェには審議会の委員も参加するということですか。

○三好委員

もちろん参加していただいて構いません。委員の皆さんがいろいろな方を誘って参加していただけるといいと思います。先ほども今回のイメージなどの募集で20代の人がいなかったということでしたので、こんな人が意見を出してくれるといいなというような人を委員の方が誘って来てくださるといいと思います。

○青山会長

ワールドカフェは、審議会ではありませんから、参加できない方はそれで結構だと思います。

○酒井副参事

区歌を作るということを知らない区民の方も多いので、このワールドカフェを開催することによって、区歌に関心を持って頂ければいいなと思っています。団体推薦の委員の皆さんは特に是非周りの方を誘って参加していただければと思います。

○三好委員

このワールドカフェの手法は、地域や学校などいろいろなところで活用できますので、この手法を委員の皆さんにもマスターしていただければ有意義なことだと思います。

○谷津委員

ワールドカフェのPR方法はどのようにするのでしょうか。

○榎本委員

PRと言ってもワールドカフェが何なのかをわかってもらわないといけませんよね。

○事務局

2月20日号の区報に掲載予定で、区報では資料にあるように「新しい区歌にふさわしいイメージや歌詞に入りたい言葉などについてグループに分かれて話し合いませんか。」といったような文章を掲載する予定です。ワールドカフェという言葉は使いません。

○三好委員

ワールドカフェという言葉は使わない方がいいと思います。会場にいらっしゃった方にその場で説明することでいいでしょう。ワイワイしゃべりましょうといった感じがいいと思います。

○谷津委員

募集人員は30人なのですか。

○事務局

いいえ、30人のところに？があるように、定員72人以内で何人ぐらいが適当なのかなというところで、50人でも定員以内でしたら何人でも構いません。

○榎本委員

座談会といった感じがいいでしょう。

一つのグループで何人が適当ということがあるのですか。

○三好委員

6人までが適当なのでしょうけれど、日本人ですと本当は4人ぐらいがいいと思います。外国人の方ですと6人、7人いても活発に意見が出されますが、日本人だと必ず何も話さなかったという人がその人数ですと出てきてしまいます。

○榎本委員

外国人の方は積極的に手を挙げて発言しますからね。

○青山会長

確かにヨーロッパだけでなく、アジアの人も積極的に意見を言いますね。日本人は「質問はありませんか」と言っても誰も手を挙げないことが多いです。そこが日本人のいい国民性でもあるのでしょうか。

○三好委員

ワールドカフェは、年齢の違いや役職の違いといったことを全く気にしないでフラットな意見交換できる場なので、「みんなで作ったんだよね」と言ったように人を巻き込むにはいい手法だと思います。武蔵野市は職員の行動指針を職員全員参加のワールドカフェで作りました。全職員が参加して納得した指針ができたという形になりました。

○青山会長

それでは、他に何かご意見はありますか。

では、今後の進め方ですが、第3回の審議会は3月3日月曜日の午後6時半からになります。その時は、ワールドカフェの資料も参考にできると思いますし、今日の議論のまとめも整理の仕方はともかくとして、整理して出してもらおうということでお願いします。それらを加味して改めて次回も十分議論できますので、これはやめよう、記述しないといったことも含めて議論したいと思います。今日出された意見は、答申のたたき台のような形で出してもらった方が整理をしやすいと思います。そのような形で次回議論したいと思います。最後の審議会は3月24日月曜日の午後6時半。その時に答申を確定するということになると思いますのでよろしくお願いします。

それでは本日はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。